

8 高等教育機関合同公開講座



「函館学」

前期：函館の歴史を探る
第2回

「道南・函館の宗教の歴史」

講師 函館大谷短期大学

学長 福島憲成

開催日時：平成18年9月9日（土）午後2時～3時30分

開催場所：函館大谷短期大学

道南の宗教歴史年表

時代	西暦	年号	松 前 の 歴 史	関 連 事 項	日 本 の 歴 史
奈良	658	斉明四年		阿部比羅夫、水軍を率いて蝦夷を討つ。	
	659	五年		後方羊蹄に郡領を置く。	
	660	六年		阿部、肅慎(ミシセ)を討つ。	
平城	710	和銅三年			平城遷都
平安	794	延暦十三年			平安遷都
鎌倉	1200～		漁師、漂流者などにより、和人の定住がおこる。		
	1205～	元久二年		安東秀信=[エゾ]管領(東夷守護)となり、渡島を支配]	北条義時=執権となる。
	1216	建保四年	幕府、強盗海賊の類五〇余人を蝦夷島に流す。 [吾妻鏡]	(安東氏は安倍頼時の子孫と言われ、一族は津軽に勢力を張っていた)	実朝、暗殺される。
	1235	嘉禎元年	荒木大学、知内に「真藤寺」を建てる。 [大野土佐日記]	安東愛秀→十三湊に移る	承久の乱 後鳥羽上皇、義時追討の院宣を下す
				南部氏 安東氏と敵対	親鸞、浄土真宗を広める。
				日持(日蓮の嫡胤)、来道か	北条政子死去 道元、曹洞宗を伝う。
					日蓮、日蓮宗を広める。
					文永・弘安の役(蒙古襲来)
室町	1336～				足利尊氏、光明天皇を擁立
				南部氏、安東氏を攻め、十三湊を攻略	後醍醐天皇、吉野へ移る。 (南北朝の対立)
	1443	嘉吉三年	秋・盛季=エゾ地へ渡る。[武田信広、政繁と共に渡道か] (後、蝦夷地の回復を図るが果たせず)エゾ地管掌に専念 安東氏の菩提寺阿吽寺 十三湊から大館へ移る [道南に安東氏の十二館が存在] [大館の主=下国山城守定季]	1441 上ノ国寺建立か 1443 泊村に観音寺建立	嘉吉の乱[將軍義教殺される。] 嘉吉の土一揆起こる。
	1457	長祿元年	初代 武田(蛸崎)信広	1456 亀田鍛冶村の鍛冶屋 蝦夷の子を殺す。 1457 信広、蛸崎氏の養子となる。[蛸崎館を築く] 1459 信広、小山隆政を殺害する。	太田道灌、江戸城を築く。
	1469	文明元年	夏・若狭の僧随芳奥尻に草庵を結ぶ。	1473 信広、勝山館で没す [兼業説]	1467 応仁の乱起こる。
	1490	延徳二年	奥尻の草庵、大館に移り、松前山法源寺と号す。 ※[山門は道内最古の建造物として道有形文化財]	1494 信広没す [没利説]	1471 蓮如、吉崎に道場建設 1485 山城で国一揆・1488加賀で一向一揆 1489 銀閣寺上棟(7年後完成)
	1494	明応三年	二代 蛸崎光広(蝦夷地の実質的支配権確保)		1495 宗祇、『新撰寛政歌集』を編む
	1496	明応五年	下国定季の没を繼いだ恒季の行状悪く、家臣、宗家安東氏に窮状を訴える。 十一月(安東氏大館に派兵) 下国恒季、自刃 相原彦三郎季胤(恒季の嫡胤)大館主となる。 [村上三河守成義副将]		蓮如、石山に本願寺を築く。 竜安寺石庭完成

			1499 弘賢、上ノ国に 浄願寺を創設。	
1512	永正九年	城下に妖事多く、疫病、暴風が続く。 熊野神社建立 [生け贖にアイヌの酋長たちを矢越神に沈める]		
1513	永正十年	十月 (アイヌ大館襲撃)		対馬氏、朝鮮と壬申条約締結
		阿吽寺焼失 する。 「法源寺・法幢寺残る」の記事 [福山記] に有り。 その後 法幢寺は一時廃絶 (蛸崎光広・義広父子大館に移る)		
1514	永正十一年	大館→徳山館と改め、安東氏のエゾ地代官 として諸国からの商船・旅客からの税をとる。		
1515	永正十二年	(東部アイヌ徳山館襲撃) 光広、計略によって、酋長ショヤコウシ兄弟 を討つ。 弁財天堂 光広、夢の告げにより弁財天を弁天 島にまつる。法源寺住職随芳を別当とする。 ※ [後、阿吽寺の管轄となる]	上ノ国、浄願寺蝦夷島を 撤退か？	
1516	永正十三年	八幡宮 、大館にまつられ、八幡大菩薩と称す。		
1518	永正十五年	三代 蛸崎義広		
1520	文龜二年	永善坊 (後の阿吽寺末寺 福寿山慈眼寺)建立。 ※ [盛季渡海の際、嵐を折った道明を開祖とする。明治二年廃寺]		
1521	大永元年	法華寺建立 。 ※ [正応四年日持上人が上ノ国に建立、後福山に移すとも、享禄二年本満寺の僧日尋が 上ノ国に法華堂を建て、後に福山に移すともいう] ※ (後、中絶)	1521 江差、 法華寺 建立	1523 寧波の乱 [細川・大内の使者、明で争う]
1527	大永七年	蛸崎義広、阿吽寺を再興、祈願所とする 。		
1528	享禄元年	五月 義広、館に侵入しようとしたアイヌを 槍で撃退		天竺人、周防に来着 [眼鏡・望遠鏡を伝える]
1529	享禄二年	三月 西部アイヌ、瀬棚の酋長タナサカシ上ノ 国館を襲う。 義広、和睦を偽ってタナサカシを射殺。		
1531	享禄四年	五月 義広、夜雨に乗じて徳山館を攻めたアイ ヌを弓によって撃退		
1533	天文二年	西館山専念寺建立 。 真宗の僧、真徳(本願寺九世、実如の弟、 兼俊[加州願得寺二世]の孫)奥州を巡教 して蝦夷へ渡り、知内にいたところ、 天文二年、蛸崎季広に招かれて創立。		
1536	天文五年	四代藩主季広の四男、真勝(真徳の養子) 専念寺二世となる。 六月 西部アイヌ酋長タリコナ(タナサカシの嫡嗣) 夫婦で徳山館襲来。 義広、計略にて酋長夫婦を殺す。		
1538	天文七年	蛸崎義広、 勝軍地藏堂 を大館の北山に建立。 ※ [現在本尊勝軍地藏大菩薩は阿吽寺に安置]		1541 武田信玄、自立する。 1542 今川、織田と戦う。
1541	天文十年	羽黒宮 、湯殿沢に創立。 ※ [現在は徳山神宮境内の全生堂神社]		
1545	天文十四年	四代 蛸崎季広		
		季広、法幢寺を再興し、父の菩提所とする 。 ※ [以後、松前藩の菩提寺となる]		1549 ザビエル鹿兒島に来る

1548	天文十七年	愛宕山権現堂を大館の西に創建。(阿吽寺の住職快祐を別当とする)	1553 川中島の戦い 1560 桶狭の戦い
1564 1567	永禄七年 永禄十年	愛宕山権現堂に神殿を造営。※[現在には熊野神社に合祀] 商人淡路屋丹下、正行寺を建立。(天正十二年説もあり)	1568 苔寺庭園再建 長崎に教会堂建立 1571 信長、比叡山を焼打 1573 室町幕府滅亡 1576 安土城なる 1577 利久、茶会を催す
1575	天正三年	大館に高德山高山寺建立。	1582 本能寺の変 ローマに少年使節派遣 山崎の戦い 太閤検地始まる。
1582	天正十年	五代 (蛸崎) 松前慶広	1583 大阪城なる。 1585 秀吉、関白となる。 方広寺建立し、本願寺復興を援助する 1587 キリシタン禁止令 1591 利久自殺 1592 文禄の役 [秀吉、朝鮮へ出兵]
1590	天正十八年	慶広、秋田松山の領主安東氏の同意を得て上京、聚楽第で秀吉に謁し、蝦夷島の支配権を認められる。[以後、蛸崎氏は、安東氏の配下を脱し、直接秀吉の配下に属して諸侯と同じ待遇を受ける。]	1594 伏見城完成
1592	文禄元年	専念寺二世、境内に「西教寺」創立。	1598 秀吉死去 1600 関が原の戦い
1593	二年	正月 慶広、朝鮮の役のため九州に滞在中の秀吉を陣中に見舞い、朱印の制書及び、津軽から大阪に至る公途の許可を賜うとともに、志摩の守に任じられる。	1602 家康、東本願寺創建
1600	慶長五年	六代 松前盛広	
1602	慶長七年	高山寺、光善寺と改称。 ※[京都百万遍忍教寺の末寺。松前藩主奥方の墓がある]	
1596~	慶長年間	阿吽寺、福山城の鬼門を守るため城北へ移る。 ※[現山門は松前城取り壊しの際に寺町御門を移築したもの]	
1603 江戸	1604	1603 家康、征夷大將軍 寺院の檀家制度行われる。 1604 出雲阿国、京にて歌舞伎踊りを始める	
	慶長九年	正月 慶広、江戸に参勤し、家康より黒印の制書を受ける。[蝦夷島全域の支配権を確保し、蝦夷島主の地位につく] 松前慶広、専念寺本尊を東本願寺教如上人に請い受ける。	
	1608	七代 松前公広	1609 豊臣秀頼、方広寺再興 1610 姫路城完成 1612 キリシタン弾圧開始 1614 大阪冬の陣 キリシタン追放 [マニラ・津軽へ追放する]
	1618	元和四年	1610 花山院少将忠長 蝦夷に流罪となり 花沢館に身を寄す。 千軒岳に金山発見。金堀夫の来道多くなる。
	1620	六年	1615 大阪夏の陣 秀頼自害
		このころ、キリスト教、松前に渡る？ ジェロニモ・デ・アンジェリス、キリスト教布教のため来道。 [藩主は信者たちに「神父には気持ちよく泊まってもらい、御馳走してあげよ」と言う] ディオゴ・カルワリーユ来道。	

1621	七年	[鑑夫に身をやつして松前に上陸、城下でミサを行い、千軒岳の金山に向かう。千軒では丁度、8月15日聖母被昇天の祝日であったため、多くの信徒が集まって盛大な祭儀が挙げられたという]	1620 桂離宮完成
1622		ジエロニモ・デ・アンジェリス来道。	
1625	寛永二年	藩主公広、八幡宮を城北(現松見本陣の位置)へ移す。 ※[松前家の氏神として崇敬され、徳山大神宮と共に二社と称された。] 龍雲院建立 。松前公広の室、華遊院にかかわって建立された。 ※[現、国の重要文化財本堂・庫裏・山門は文政十三年(1830)の修理のまま]	1624 東照宮陽明門完成 1625 寛永寺創建
1630	寛永七年	専念寺五世玄珠 浄土寺 創立 (後、小樽へ移転)	
1633	寛永十年	この頃から近江商人活躍	函館最古の寺院 「高龍寺」建立
1639	十六年	キリシタンを逮捕、処刑を行う。 [大沢、千軒、石崎で百六人が暫首される。] 以後、厳重な宗門改めを行う。	1633 鎮国令 1635 武家諸法度改定 [参勤交代制はじまる] 1637 島原の乱
1641	寛永十八年	八代 松前氏広	
1644	正保元年		函館に「称名寺」建立 松前景広(慶広の六子) [新羅之記録]を書く。
1646	正保三年六月	阿吽寺火災に遭う。	
1648	慶安元年	九代 松前高広	
1649	慶安二年	法源寺伽藍、類焼により焼失。	
1652	承応元年	藩主高広、徳山神宮を造営。 [松前一の宮として栄え、現在拝殿は道文化財]	
1653	二年	専念寺六世浄玄江差掛所川 正寺 創建。 [現、江差東別院]	
1665	寛文五年	十代松前矩広	
1666	寛文六年	観音堂に馬頭観音の新像を安置。 中世中頃、蝦夷に渡った、渡り党が創祀したものと伝えられる。馬形野にあったので馬形観音と呼ばれていた。 ※[現在は徳山神宮に合祀]	
1669	九年	シヤクシャインの戦い起こる	
1674	延宝二年	家老蛸崎主殿広隆、江戸の藩邸で変死。	
1678	延宝六年	家老松前左エ門、弟主善幸広と争論し、即日落命。主善幸広も翌日死亡。 門昌庵事件 起こる。 [法隆寺六世住職柳庵和尚、藩主矩広の愛妾と通じたと言ひ讒言により殺される。]	1678 松前藩、江差に奉行所を設ける。
	六年		1680 綱吉將軍となる 1682 江戸の大火[八百屋お七の火事]
1681	天和元年	家老蛸崎広明(広隆の弟)、江戸の藩邸で変死。	
1690	元禄三年	松前氏、「交代寄合」の資格を与えられる。 [一万石未満だが、身分格式は大名に準じ、領所に交代をする家柄]	1690 「実行寺」松前法華寺の末寺となる。
1709	宝永六年	蛸崎広久、変死。	1709 東大寺大仏殿再建。

1716	享保元年	蛸崎広武(広明の子)、変死。		
1721	享保五年	十一代 松前邦広		
1743	寛保三年	十二代 松前資広		
1760	宝歴十年	専念寺後見住職百醜、専念寺昇格の功績により資広より、陣羽織を贈られる。[越前七条製として今も残る]	百醜、乙部専念寺を建立 [明治五年に専断寺と改称する]	1748 仮名手本忠臣蔵上演。
1765	明和二年	十三代松前道広		
1672	寛文十二年	蝦夷地と大坂を直行する西回り航路が開設 北前船での交易が盛んになる		1774 玄白『解体新書』出版
1783	天明三年	大原呑響、松前に遊び、波響の家に寓居。 [波響、呑響に前奉し、これより波響と号す]	1780 木喰上人、(二年の江差滞在 後)福山から船出す。 [福山秘府]書かれる。	1781 天明の飢饉
1785	五年	最上徳内ら蝦夷地調査を行う。		1783 光太夫、アリソンに漂着
1789	寛政元年	クナシリにてアイヌ反乱 波響、反乱鎮圧に一役買ったアイヌの酋長たちの像(夷酋列像)を描く。		1786 ロシア人、千島に来る。
1791	寛政三年	波響、上京の際アイヌの像を持参、好評を得る。 [光格天皇に浄写して献上、賞詞や文具を下賜される]		
1792	寛政四年	十四代 松前章広		1792 ロシア使節ラクスマン、光太夫を連れ、根室に来航、通商を請う。
1799	寛政十三年	東蝦夷、幕府の直轄となる。		1798 近藤重蔵エトロフ島に『大日本志士呂府』の標柱を建立。 1799 高田恆彦兵衛 エトロフ航路を開く。
1803	文化 元年	幕府蝦夷三官寺建立	厚岸 国泰寺創設	
1804	文化 二年		有珠 善光寺創設	
1806	文化 三年		様似 等樹院創設	
1807	文化 四年	松前・全蝦夷幕府の直轄となる。 [松前氏は福島県梁川へ移封]	(寛政年間)盛岡の琵琶法師佐之市、江差追分館を完成する。	
1821	文政四年	幕府蝦夷直轄を解き、松前藩復領	池大雅、江差法華寺本堂 天井に「八咫の龍」図を描く]	
1834	天保五年	十五代 松前良広		
1839	天保十年	十六代 松前昌広		
1848	嘉永元年	津軽海峡付近に外国船が多く出沒		1846 頼三樹三郎、松浦武四郎、江差に滞在。 [雲石楼で出会う]
1849	嘉永二年	十七代 松前崇広 [それまで福山城は正式には陣屋と称していた] 幕府、特旨をもって松前藩主崇広に築城を命ず。 [松前氏の資格は城持ちに昇格]	幕府、箱館を外国に開港、	

	1854	安政元年	新城竣工。[日本最後の旧式の城となる。] [総面積23578坪、本丸、二の丸、三の丸、城門16、 楼櫓6、外郭に砲台7座、築城費用=約10万両]] 松前氏の領地縮小される。 [東は知内～西は五厘沢までの三十里となる]	箱館奉行を置く。	5月 ペリー-函館来航 横浜で「日米和親条約」を 締結後、5隻の艦船を引き つれて箱館に入港。
	1855	安政二年	法源寺・龍雲院・正覚寺蝦夷地開拓を嘆願		
	1859	安政六年		西本願寺派願乗寺住職堀 川乗経 函館に一寺(後、 函館西別院)を建て、 亀田川の工事に着手。 ロシア領事館に聖ハリス トス正教会創立 フランス人宣教師 カトリック教会を創立	
	1861	文久元年			
	1864	元治元年	藩主崇広、幕府老中格に列し、海軍總奉行とな り、長州征伐にあたる。 崇広、老中阿部豊後守守世と共に兵庫開港の談 判にあたり、勅許を得ずに開港をする。 崇広、朝廷より、勅命をもって謹慎。		1864 英・仏・蘭の軍艦九隻 兵庫に入港し、開港を 迫る。
	1866	慶応二年	十八代 松前徳広		
	1867	慶応三年	崇広、正月に松前に帰り、四月に病没。		大政奉還
明治	1868	明治元年 十月 十一月	二十日 旧幕軍蝦夷地上陸 五日 藩兵、城下町に火を放つ。 [4000戸の城下街の4分の3が灰燼と化す] 十四日 榎本武揚、「開陽」で松前入港。	10/20 榎本武揚の率いる 2000余名の軍勢、鷲ノ 木に上陸 10/27 土方軍松前を攻撃。 土方歳三を指揮者とする700名の 軍勢松前に進撃 11/15 榎本軍、江差占領。 「開陽」風雪のため座礁 5/11 土方戦死 六月 五稜郭陥落 榎本武揚官軍に投降	神仏分離令施行 鹿嶋殿積起こる 明治政府北海道開拓使設置 東本願寺道路建設を申し出る。
	1869	明治二年	十九代 松前修広		
	1870	明治三年		仙台藩亙理二万三千石 領主伊達邦成、家臣団を 連れ現伊達市に入植。 (最初の開拓団)	九月 現如北海道視察 現如、本願寺道路開削を行う。 開拓使函館に移る
	1871	明治四年	松前藩廃藩		開拓使本庁札幌に移る
	1875	明治八年			屯田兵の入植始まる 各宗教北海道開教を奨励、 信者の入植を勧める。